

時事解説

令和4年度植物防疫研究課題の概要

農林水産省 農林水産技術会議事務局
研究開発官(基礎・基盤, 環境)室

はじめに

農林水産省では、持続可能な食料システムの構築に向け、令和3年5月に「みどりの食料システム戦略」を策定した。本戦略では、2050年までに目指す姿として農林水産業の環境に関する様々な数値目標を設定しており、植物防疫に関連する目標として、化学農薬の使用量(リスク換算)の50%低減等が掲げられている。これら目標の達成には、発生の予防を含めた総合的な防除への移行、普及が急務であり、現在の技術の普及だけでなく、イノベーション等による新たな病虫害防除技術の開発が必要とされている。

このような情勢の中で、令和4年度は下記に紹介する事業において植物防疫研究が実施される。以下に、まず令和4年度の農林水産試験研究費予算の概要を述べ、次に植物防疫関係の主なプロジェクト研究について紹介する。

I 農林水産技術会議事務局関係の令和4年度予算及び令和3年度補正予算の概要

令和4年度のポイントとして、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現するため、「みどりの食料システム戦略」に資する予算要求を実施した。

以下に、主な研究項目と事業名を挙げる。事業名だけでは内容がわかりにくい場合には、主な研究・事業内容を記した。

1 みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業 (令和3年度補正予算額：48億5千万円, 令和4年度予算額：34億6千6百万円)

農林水産業・食品産業の生産力向上と持続性の両立の実現に向け、スマート農業における優れた技術の横展開のための導入実証等を推進するとともに、農林漁業者等

のニーズ、気候変動といった新たな課題、バイオ技術を活用したイノベーション創出等に対応する研究開発等を推進する。

1-1 みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業のうちスマート農業の総合推進対策 (令和3年度補正予算額：48億5千万円, 令和4年度予算額：14億4百万円)

令和7年までに農業の担い手のほぼすべてがデータを活用した農業を実践することを目標とし、生産現場のスマート農業加速化に必要な農業技術の開発・改良や産地ぐるみでのスマート農業技術導入の実証等を行う。また、スマート農業を普及させるための環境整備も本事業で実施する。

1-2 みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業のうち農林水産研究の推進 (令和4年度予算額：20億6千2百万円)

重要課題に対する技術を開発し、令和8年度までに農林漁業者等がその開発された技術を実践すること等を目標とし、国主導で実施すべき重要な研究分野について、戦略的な研究開発を推進するとともに、研究開発と成果の社会実装を効果的に行えるよう、アウトリーチ活動の強化等の環境整備を実施する。

(1) 現場ニーズ対応型研究

農林漁業者等のニーズを踏まえ、実装までを視野に入れた研究開発を推進する。

1) 有機農業の生産体系の構築に向けたプロジェクト

①有機農業推進のための深水管理による省力的な雑草抑制技術の開発

②輪作体系における持続的な小麦生産の実現に向けた減化学肥料・減化学農薬栽培技術の確立

2) 生産性と両立する持続的な畜産プロジェクト

①子実用とうもろこし(国産濃厚飼料)の安定多収生産技術の開発

②鶏及び豚の快適性により配慮した飼養管理技術の開発

3) 生産現場強化プロジェクト

①AI画像解析等による次世代穀粒判別器の開発

Government Research Projects on Crop Protection in 2022.

(キーワード：令和4年度予算要求, 植物防疫研究課題, 農林水産技術会議事務局)